JFA.jp

公益財団法人 日本サッカー協会

PROFILE

JAPANESE EDITION

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、
国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

世界中で最も愛されているスポーツ、サッカー。
世界中の人々がこのスポーツに熱狂し、勇気や感動を享受します。
そして、サッカーを通じて世界を知り、言葉や人種、文化の違いを超えて喜びを分かち合います。
国際社会には依然として紛争や差別、貧困、地球温暖化などさまざまな問題が横たわっていますが、
我々はサッカーの持つ影響力や国際力を十分自覚して問題の解決に取り組み、
笑顔と希望に満ちた社会の実現に寄与したいと考えています。
1921年に創設して以来、受け継がれてきた日本サッカーの精神を継承しながら、サッカーの発展、
国際社会の平和を目指し、挑戦し続けます。

JFAのバリュー

エンジョイ	スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト	選手にとっての最善を考えること
フェア	オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ	成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト	関わりのあるすべてを大切に思うこと

DREAM

夢があるから強くなる

日本サッカーの発展のために常に挑み続ける

日本サッカーはこの四半世紀で長足の進歩を遂げました。Jリーグの創設や2002FIFAワールドカップの開催などエポックメイキングな出来事もさることながら、サッカーがマイナースポーツだった時代から取り組んできた選手育成や指導者養成もまた、日本サッカーを発展させる原動力になりました。

世界のサッカーは急速に進化しています。アジアを見ても、従来の強豪国に加え、ウズベキスタンやタイ、ベトナムといった新興国が台頭していますし、経済成長を受けてサッカーに投資する国が増えています。日本も過去の成功にとらわれることなく、挑戦し続けなければなりません。

いま、日本サッカーにとって大きな鍵を握るのは2020年の東京オリンピックです。男女代表ともに好成績を挙げ、そのレガシーを次の日本サッカーの飛躍につなげていく必要があります。代表強化、育成、指導者養成の三位一体の強化策、サッカーの普及、環境整備、さらには、登録制度の在り方についても新たな施策を講ずるときにきています。

一方で、どんなに社会が変わろうと変えてはならないものがあります。それは「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」というJFAの理念です。

スポーツは、健康増進や地域コミュニティーの醸成、教育の分野でも極めて重要な役割を果たすもので、少子高齢化が進む日本においてますます欠かせないものになっていくでしょう。グラスルーツサッカーの推進や「JFAこころのプロジェクト」をはじめとする子どもたちの心身の健全な育成、フェアプレー・リスペクトの推進、けが予防やアンチドーピングといったスポーツ医科学との連携、アジア貢献や国際親善など、取り組むべきことは多岐にわたります。

日本サッカーは、指導者や審判員をはじめとする多くのボランティアの皆さんの熱意によって成り立っています。JFAは日本サッカーの未来に向けて皆さんと手を携え、知恵を出し合い、グラスルーツからトップレベルのサッカー、JFAや47都道府県サッカー協会のガバナンスに至るまで全てにおいて“世界基準”を追い求めながら、JFAの理念の実現にまい進していきます。

公益財団法人 日本サッカー協会
会長 田嶋幸三

「JFA2005年宣言」の実現に向けて

JFAは、2005年1月に行った「JFA2005年宣言」において、「JFAの約束2015」と「JFAの約束2050」という2つの中長期目標を掲げました。2015年、JFAは「JFA2005年宣言」からの10年間の取り組みを総括するとともに、「JFAの約束2050」の実現に向けて、「JFAの目標2030」を新たに設定しました。

2022年までの主なイベント

- 2018年　FIFAワールドカップロシア
- 2019年　FIFA女子ワールドカップフランス
- 2020年　東京オリンピック・パラリンピック競技大会／FIFAフットサルワールドカップ
- 2021年　JFA創立100周年
- 2022年　FIFAワールドカップカタール

2005

「JFA2005年宣言」
(2005年1月1日)

2015

JFA2005年宣言

「JFAの約束2015」

1. サッカーを愛する仲間=サッカーファミリーが500万人になる。
2. 日本代表チームは世界でトップ10のチームとなる。

2018 / 2022

JFAの目標2030

普及

2030年までに、サッカーファミリーが800万人になる。

- 普及目標2018年　サッカーファミリー560万人
- 普及目標2022年　サッカーファミリー640万人

強化

日本代表チームは、FIFAワールドカップに出場し続け、2030年までにベスト4に入る。

- 強化目標2018年 FIFAランキングトップ20
- 強化目標2022年 FIFAランキングトップ10

※上記「日本代表チーム」はSAMURAI BLUEを指す

ふたつの目標を達成するために、基盤整備に努め、2030年までに、世界でトップ3の組織になる。

2030

2050

JFA2005年宣言

「JFAの約束2050」

2050年までに、すべての人々と喜びを分かちあうために、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間=サッカーファミリーが1000万人になる。
2. FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームとなる。

日本サッカーの象徴
より強く、世界に誇れる代表チームへ

日本代表は、日本サッカーを象徴する存在です。
その活躍が、日本のサッカーをけん引し、全国各地でプレーする選手たちの指標となります。
だからこそ、日本代表は、強く、魅力にあふれ、勝利を追い続ける集団でなければなりません。
しかし、ただ勝つことだけで満足はしません。
スポーツの尊厳を守るという、気高い志と使命感を持ち、フェアな戦いで勝利を目指します。
そして、名実ともに、世界に誇れるチームになることを追い求めていきます。

SAMURAI BLUE（日本代表）

日本代表が初めて世界舞台に立ったのは、1923年の第6回極東選手権大会。以降、600を超える国際Aマッチを戦ってきました。
初めてFIFAワールドカップに出場したのは、1998年のフランス大会。以来、6大会連続出場を果たしています。韓国との共催となった2002年大会と2010年の南アフリカ大会では、グループステージを突破し、ベスト16の成績を収めました。
AFCアジアカップでは、1992年の初優勝以降、最多となる4度の優勝を成し遂げています。
2006年のドイツ大会からは、SAMURAI BLUEの愛称で活動しています。

OFFICIAL PARTNER KIRIN
OFFICIAL SUPPLIER adidas
SUPPORTING COMPANIES 朝日新聞 SAISON CARD 大東建託 FamilyMart JAPAN AIRLINES au MIZUHO MS&AD

U-21 日本代表（2018）

U-18 日本代表（2017）

U-23日本代表

オリンピックを目指す若き日本代表。1992年のバルセロナ大会から男子サッカー競技に「23歳以下」という年齢制限が設けられ、U-23日本代表が編成されました（※）。

日本サッカーがオリンピックに初出場したのは1936年のベルリン大会。優勝候補のスウェーデンを破りベスト8に進出しました。1968年のメキシコ大会では、銅メダル獲得の快挙を成し遂げました。以後、長い低迷期を経て、再びオリンピックの舞台に立ったのは28年後のアトランタ大会。日本代表の躍進とともに若い世代も成長し続け、Jリーグ誕生以降は6大会連続でオリンピック出場を果たしています。

現在は、2020年の東京オリンピックを目指して強化を進めています。

※1996年のアトランタ大会からは、各チーム3人までの24歳以上の選手の出場を認めるオーバーエイジ枠が採用されています。

U-20 日本代表

FIFA U-20ワールドカップは1977年に第1回大会が開催され、以来、2年に一度開催されています。この舞台に立つには、前年に開催されるAFC U-19選手権で上位に進出し、出場権を獲得しなければなりません。

U-20日本代表は、FIFA U-20ワールドカップに9回出場しています。1999年のナイジェリア大会では準優勝に輝きました。2009年大会以降はしばらく出場権を逃していましたが、5大会ぶりに出場した2017年大会では16強入りを果たしました。

U-17 日本代表

FIFA U-17ワールドカップは1985年、16歳以下の代表チームによる世界大会としてスタートしました。1991年からは17歳以下に年齢が引き上げられ、2年に一度開催されています。この大会に出場するためには、前年に開催されるAFC U-16選手権で上位に進出することが求められます。

U-17日本代表はこれまでにFIFA U-17ワールドカップに8回出場しており、日本で開催された1993年大会、2011年のメキシコ大会では過去最高となるベスト8の成績を残しています。

フットサル日本代表

1989年に創設されたFIFAフットサルワールドカップに出場するために、同年、フットサル日本代表が編成されました。世界大会は1992年以降は4年に一度開催されており、日本はこれまで4大会に出場しています。2012年のタイ大会では、初のグループステージ突破を果たしてベスト16の成績を収めました。1999年にスタートしたAFCフットサル選手権には全15大会に出場し、3度の優勝を果たしています。また、年代別のチームも編成し、若い世代からトップへつながる体制を整えています。

ビーチサッカー日本代表

2005年に創設されたFIFAビーチサッカーワールドカップ。日本は同大会に招待チームとして出場し、ベスト4進出の躍進を見せました。2008年大会以降は2年に一度開催されており、日本はこれまで全9大会に出場しています。

2006年にスタートしたビーチサッカー選手権（2015年からはアジアサッカー連盟が主催）では、全8大会に出場し、2度の優勝、5度の準優勝に輝いています。

U-16 日本代表（2018）

フットサル日本代表

ビーチサッカー日本代表

©AFC
U-16 日本女子代表（2017）

©AFC
U-19 日本女子代表（2017）

©AFC
フットサル日本女子代表

NADESHIKO JAPAN（日本女子代表）

「なでしこジャパン」の愛称で親しまれている日本女子代表は、1991年にFIFA女子ワールドカップが創設されて以降、全7大会で本大会出場を果たしています。2011年のドイツ大会では、強豪・アメリカをPK戦の末に下して世界女王の座を獲得。この年、東日本大震災で深い傷を負っていた日本国民に大きな希望と勇気をもたらしたとして、団体としては初となる国民栄誉賞を受賞しました。また、女子サッカーがオリンピック競技種目となった1996年以降は、4回のオリンピックに出場。2012年のロンドン大会では銀メダルを獲得しました。

※「なでしこジャパン」は日本の神話に登場する女神、櫛稲田姫の愛称である「大和撫子」からつけられたもの。なでしこの花のように美しく、強い日本人女性を表現しています。

U-20 日本女子代表

2002年以降、2年に一度開催されているFIFA U-20女子ワールドカップ。日本はこれまで5回の出場を果たしており、12年の日本大会では過去最高成績となる世界3位の座に就きました。アジア予選を兼ねたAFC U-19女子選手権では、連覇を含む5度の優勝を成し遂げています。

U-17 日本女子代表

FIFA U-17女子ワールドカップは2008年に新設され、2年に一度開催されています。日本は全5大会に出場し、2010年大会と2016年大会では準優勝に輝きました。2014年のコスタリカ大会では、高倉麻子監督（現なでしこジャパン監督）のもと悲願の初優勝を果たし、なでしこジャパンに続いて世界一の称号を手にしました。

フットサル日本女子代表

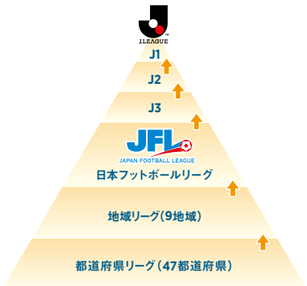
2007年に結成したフットサル日本女子代表は、同年のアジアインドア・マーシャルアーツゲームズで初優勝を果たすと、2013年大会まで3連覇、2017年大会では銀メダルを獲得しました。2015年にはAFC女子フットサル選手権がスタートし、準優勝。2018年の第2回大会では2大会連続の準優勝となりました。

なでしこジャパン

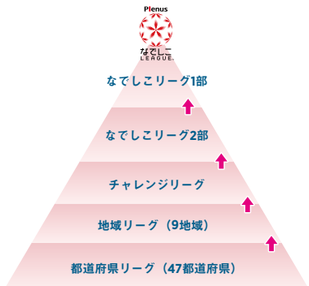
©AFC
なでしこジャパン

全国リーグ

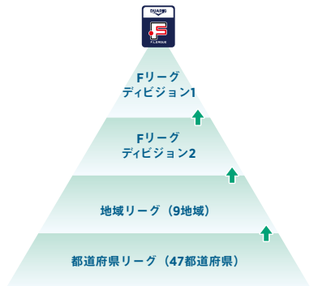
日本サッカーは、プロリーグであるJリーグを頂点に、アマチュアトップの日本フットボールリーグ（JFL）以下、地域リーグ（9地域）、都道府県リーグ（47都道府県）とピラミッド型のリーグ構造を形成しています。それぞれのリーグ間で昇降格があることでリーグ全体が活性化し、チームや選手個々が高みを目指すサイクルが生まれます。
また、女子やフットサルでも同様に全国リーグが展開されています。



Jリーグ／日本フットボールリーグ（JFL）



なでしこリーグ



Fリーグ

Jリーグ

Jリーグは日本サッカーの強化と地域スポーツの新興を目的に、1991年に設立された日本初のプロサッカーリーグです。現在はJ1に18クラブ、J2に22クラブ、J3に14クラブが加盟しています。リーグは1993年に10チームで開幕し、現在、J1、J2、J3リーグ等で順位を争っています（J3リーグには、FC東京、ガンバ大阪、セレッソ大阪のU-23チームも参加）。
J1リーグの上位3チームには、「AFCチャンピオンズリーグ」の出場権が与えられ、そこで優勝すると各大陸のクラブ王者が集結する「FIFAクラブワールドカップ」に出場することができます。
https://www.jleague.jp/

日本フットボールリーグ（JFL）

Jリーグに次ぐアマチュア最高峰のリーグです。現在は、Jリーグ入りを目指す地域のクラブチームや企業チームなど16チームが加盟しています。ファーストステージ、セカンドステージの2ステージ制によるリーグ戦を実施し、ステージ毎に順位を決定。その後、各ステージ1位チームによるチャンピオンシップを行い、年間王者を決定します。
http://www.jfl.or.jp/

なでしこリーグ

日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）は1989年にスタートしました。現在は、なでしこリーグ1部に10チーム、なでしこリーグ2部に10チーム、その下に位置付けられるチャレンジリーグに12チームが参加しています。
http://www.nadeshikoleague.jp/

Fリーグ

日本フットサルリーグ（Fリーグ）はフットサルの全国リーグで、2018-19シーズンからはディビジョン1（12クラブ）およびディビジョン2（8クラブ）の2部制になりました。優勝チームにはAFCフットサルクラブ選手権の出場権が与えられます。
http://www.fleague.jp/

日本女子フットサルリーグ

2017年に日本女子フットサルリーグが創設され、現在、加盟8チームによるリーグ戦が開催されています。
http://w-fleague.jp/

全国の試合環境を充実させ サッカーを日本の文化に

JFA 全日本ビーチサッカー大会

各種全国大会

各年代、各カテゴリーのチームが参加できる各種大会・リーグを整備しています。多くの人々がサッカーやフットサル、ビーチサッカーに親しむ環境を広げる一方で、有能な選手がチャレンジし、ステップアップできる体制を整えています。

全日本高等学校女子サッカー選手権大会

カテゴリー

第1種

原則として年齢制限のない選手により構成されるチーム。Jリーグに所属するクラブや社会人チーム、クラブチーム、大学、専門学校チームなど。

第2種（U-18）

18歳未満の選手で構成されるチーム（*）。Jクラブのユースチームや高校の部活動、各地のクラブチームなど。

第3種（U-15）

15歳未満の選手で構成されるチーム（*）。Jクラブのジュニアユースチームや中学校部活動、各地のクラブチームなど。

第4種（U-12）

12歳未満の選手で構成されるチーム（*）。小学生の部活動、各地のクラブチームなど。

女子

女子の選手で構成されるチーム。U-12未満の選手は、第4種チームに登録。

シニア

40歳以上の選手で構成されるチーム。

フットサル

サッカー同様、第1種から第4種まである（*）。

ビーチサッカー

ビーチサッカー専門の登録制度はなく、サッカーもしくはフットサルの登録をした選手で構成されるチーム。

*第2種、第3種、第4種の場合、それぞれ高校在学中、中学校在学中、小学校在学中の選手にはこの年齢制限を適応しない。

JFA主催競技会など

■選手権大会

- 天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会
- 全日本大学サッカー選手権大会
- 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント
- 全国社会人サッカー選手権大会
- 全国地域サッカーチャンピオンズリーグ
- 全国クラブチームサッカー選手権大会
- 全国専門学校サッカー選手権大会
- 全国高等専門学校サッカー選手権大会
- 全国高等学校サッカー選手権大会
- 全国高等学校総合体育大会サッカー競技
- 日本クラブユースサッカー選手権（U-18）大会
- 高円宮杯 JFA 全日本U-15サッカー選手権大会
- 日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会
- 全国中学校体育大会／全国中学校サッカー大会
- JFA 全日本U-12サッカー選手権大会
- 皇后杯 JFA 全日本女子サッカー選手権大会
- 全日本大学女子サッカー選手権大会
- 全日本高等学校女子サッカー選手権大会
- JFA 全日本U-18女子サッカー選手権大会
- JFA 全日本U-15女子サッカー選手権大会
- JFA 全日本フットサル選手権大会
- JFA 全日本U-18フットサル選手権大会
- JFA 全日本U-15フットサル選手権大会
- JFA 全日本U-12フットサル選手権大会
- JFA 全日本女子フットサル選手権大会
- JFA 全日本U-15女子フットサル選手権大会

■大会

- 国民体育大会（サッカー競技）
- JFA 全日本O-60サッカー大会
- JFA 全日本O-50サッカー大会
- JFA 全日本O-40サッカー大会
- 日本スポーツマスターズ サッカー競技
- JFA 全日本O-30女子サッカー大会
- JFA 全日本ビーチサッカー大会
- 全日本大学フットサル大会

■リーグ

- 日本フットボールリーグ
- 日本女子サッカーリーグ
- 日本フットサルリーグ
- 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ
- 高円宮杯 JFA U-18サッカープリンスリーグ
- 高円宮杯 JFA U-15 サッカーリーグ
- U-13地域サッカーリーグ
- JFA U-12サッカーリーグ

■その他

- JFA O-70 サッカーオープン大会
- JFA O-40女子サッカーオープン大会
- JFA地域ガールズ・エイト（U-12）サッカー大会
- チャレンジサッカー
- インディペンデンスリーグ全日本大学サッカーフェスティバル
- 全日本大学サッカー新人戦
- 日本クラブユース東西対抗戦（U-15）

※その他、Jリーグが主催する競技会を共同主催

天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会

高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ

高円宮杯 JFA 全日本 U-15 サッカー選手権大会

JFA 全日本 O-60 サッカー大会

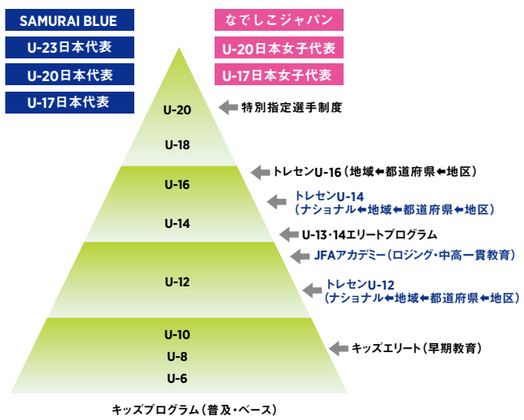
JFA 全日本 U-15 女子フットサル選手権大会

「世界基準」を合言葉に良い選手を育てていく

世界を見据えた強化策

世界のトップ10入りを標榜するJFAは、「世界をスタンダードとした強化策の推進」を掲げ、「代表強化」「ユース育成」「指導者養成」の部門を連携させながら強化を推し進めてきました。しかし、世界のサッカー先進国がそうであるように、サッカーを楽しむ広い裾野があってこそトップレベルも発展します。そこで、キッズからシニアまで、多くのサッカーファミリーが楽しめるよう普及（グラスルーツ）にも力を注ぎ、総合的なアプローチで日本サッカーのレベルアップを図っています。

日本型選手育成システム



世界をスタンダードとした強化策の推進

三位一体+普及の強化策

日本サッカーの永続的な強化

各年代の世界大会を分析・評価して課題を抽出し、代表チームの強化やユース育成、指導者養成などの現場で課題を克服、そして、再び世界大会に挑戦する、というサイクルで代表強化を図っています。

JFA Youth & Development Programme

サッカーの普及や次世代選手の育成を促進することに重きを置いた活動です。同プログラムを支援するパートナー企業5社と連携し、ユース年代をはじめ、大学、シニア、女子、フットサル、ビーチサッカー、技術関連事業など、各領域においてさまざまな施策を講じています。

パートナー企業

JFA Youth & Development Official Partner

OFFICIAL PARTNER

JFA Youth & Development Official Supporter

TOYOTA OFFICIAL SUPPORTER　ニチバン OFFICIAL SUPPORTER　meiji OFFICIAL SUPPORTER

JFA Youth & Development Official Provider

molten For the real game OFFICIAL PROVIDER

JFA/Jリーグ協働プログラム（JJP）

Jリーグ、Jクラブと協働して、ワールドクラスの選手を輩出することを目的に実施しています。
Jクラブのアカデミーチームの海外遠征や育成年代の国際大会の充実、また、その年代を教える指導の研修などを支援するプログラムを行っています。

トレセン制度

トレセン制度は、有能な選手を年代ごとに集め、充実した環境の下で一定期間、指導するシステムで、選手育成の中心的役割を果たしています。
指導は、選手の「個」のレベルアップを主眼に置いて行われており、「ブロック／地区→都道府県→地域→全国」へとレベルごとに選抜される仕組みになっています。優秀な選手はユース年代の代表チームへと送り出されます。

■トレセン認定制度

全国各地で実施されているトレセン活動のさらなる質の向上を目指し、JFAは、一定の基準を満たしたトレセンを認定する制度を設けています。

■JFAナショナルトレセンU-14・U-12・女子U-14

ナショナルトレセンU-14の前期コースは3地域（東日本・中日本・西日本）で開催、後期には地域対抗戦を実施しています。ナショナルトレセンU-12は、9地域に分かれてそれぞれ年1回、ナショナルトレセン女子U-14は2地域（東日本・西日本）で年1回開催しています。

■JFAフットボールフューチャープログラム／トレセン研修会U-12

各都道府県で活動しているトレセンU-12の参加選手とその指導者を対象にした研修会で、試合・トレーニングのみならず、レクチャーやディスカッションなどのプログラムも実施しています。

■U-15タウンクラブ・中体連キャンプ

各地のクラブチームや中学校体育連盟（中体連）に所属している選手を対象に、年に2回、キャンプを行っています。

■U-16トレセンキャンプ

各都道府県で活動しているトレセンU-16の選手を集め、年に1回、キャンプを実施しています。

エリートプログラム

U-13／14年代の男女選手を対象としたプログラムで、ユース年代の代表につなげる役割を担っています。
男子は、ナショナルトレセンU-13／14の活動内容と連動し、U-13／14それぞれ年4回、キャンプや海外遠征などを実施しています。加えて、9月1日以降に生まれた選手を対象にしたエリートプログラムフューチャーキャンプも行っています。
女子のエリートプログラムは、地域・都道府県トレセンから選手を選出し、U-13／14それぞれ年3回、キャンプや海外遠征を実施しています。U-15の選手に対しては年2回、U-15日本女子選抜のキャンプを行っています。

ナショナルGKキャンプ

将来の日本代表を担うGKの育成・強化を目的に年1回、全国からU-15／18年代のGK選手を招集してキャンプを開催しています。

女子GKキャンプ

将来のなでしこジャパンのGKを発掘・育成するプロジェクトで、「強化」「育成」「普及」の観点から選手を選出し、継続したトレーニングを行っています。

JFA・Jリーグ特別指定選手制度
JFA・なでしこリーグ特別指定選手制度
Fリーグ特別指定選手制度

JFA・Jリーグ特別指定選手制度は、全日本大学サッカー連盟や全国高等学校体育連盟に所属する大学・高校の選手、Jクラブ以外の日本クラブユースサッカー連盟加盟の第2種チームに所属する選手が対象で、JFA技術委員会から認定を受けた選手は、所属チームに登録したままJリーグなどの試合に出場することができます。
JFA・なでしこリーグ特別指定選手制度は、なでしこリーグ以外のチームに所属する選手が対象で、JFA女子委員会の認定を受けて、所属チームに登録したままなでしこリーグ加盟チームの活動に参加することができます。
フットサルも同様に、Fクラブ以外のチームに所属するJFA登録のフットサル選手を対象にした特別指定選手制度を導入しています。

なでしこジャパン海外強化指定選手

なでしこジャパンの核となる選手を一定期間、海外のトップクラブで研さんを積ませる制度で、その間の経済的支援を行っています。

JFAアカデミー

ロジング形式（寄宿制）で、長期にわたって選手を教育・指導するエリート育成機関です。サッカーのみならず、国際社会にも貢献できる真のリーダーの育成を目指しています。
現在、福島、熊本宇城、堺、今治の4校が活動しており、アカデミーの選手育成コンセプトを全国に広めています。

	福　島	熊本宇城	堺	今　治
所在地	静岡県御殿場市、裾野市*	熊本県宇城市	大阪府堺市	愛媛県今治市
対象	男子・女子	男子	女子	女子
活動期間	中学1年生～高校3年生	中学1年生～3年生	中学1年生～3年生	中学1年生～3年生
活動概要	寮生活	平日のみ寮生活	平日のみ寮生活	平日のみ寮生活
チーム登録	アカデミーでチーム登録し、公式戦に出場	各々地元チームに所属し、その一員として公式戦に出場	各々地元チームに所属し、その一員として公式戦に出場	各々地元チームに所属し、その一員として公式戦に出場

*東日本大震災の影響により、福島県双葉郡から一時移転。男子は2021年から、女子は2024年から福島での活動を再開する予定です。

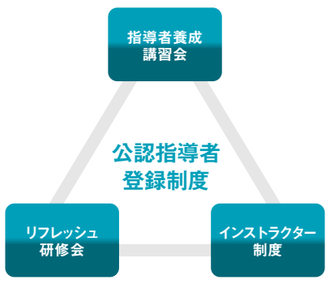
ゲーム環境の整備

JFAは、選手たちが真剣勝負の中でトライ&エラーを繰り返しながら、技術・戦術面のレベル、さらには失敗を恐れずにチャレンジする強い精神力を身に付けられるよう、各年代の大会のリーグ戦化を推し進めています。
また、U-12年代では多くの選手が試合に出場できるよう、少人数制サッカーを推奨しています。

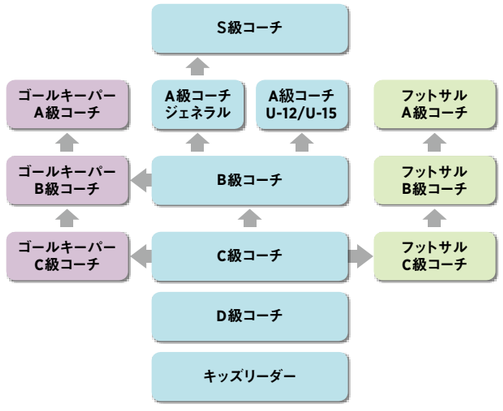
質の高い指導者養成で選手の成長を促進する

指導者養成制度

JFAは、サッカー／フットサル指導者を対象に各種講習会を開催しています。コースは、10歳以下の子どもにスポーツやサッカーの楽しさを伝える「キッズリーダー」からプロチームを指導できる「S級コーチ」まであり、修了者にはライセンスが付与されます。ライセンス取得者にはJFAの活動やトレーニング方法などの最新情報や指導機会を提供しています。



指導者養成講習会 –JFA指導者ライセンス体系–



インストラクター制度

JFAは指導者を指導するインストラクターの養成にも取り組んでいます。
インストラクターは、JFAが開催する指導者養成講習会やリフレッシュ研修会で講師を務め、JFAの強化育成方針や具体的な施策などを全国各地の指導現場に広めていく役割も担っています。

リフレッシュ研修会

指導者は資格更新のためだけではなく、リフレッシュ研修会を通じて、新しい知識や情報を得ることができます。

フットボールカンファレンス

JFAは、国際サッカー連盟（FIFA）やアジアサッカー連盟（AFC）などから講師を招へいし、2年に一度、フットボールカンファレンスを開催しています。全国各地で活動する指導者のほか、アジアからも参加者を募り、先進国のサッカーの流れや育成などの取り組みなどさまざまな情報を提供しています。カンファレンスはまた、日本サッカーが進むべき方向性を草の根からトップまで全国の指導者と共有する場でもあります。

審判員のレベルアップ

サッカー／フットサルの審判員資格は、対象となる試合のレベルに応じて1級から4級まであります。審判員は競技規則を理解し、試合はもちろん、研修会や講習会などで研さんを積んでいます。JFAには現在、約27万人のサッカー審判員と2万5千人のフットサル審判員が登録しています。

審判員制度

［サッカー］

- **1級**　JFAが主催するサッカー競技を担当
- **女子1級**　JFAが主催・管轄する女子サッカー競技、もしくは2種・3種・4種の試合を担当
- **2級**　地域サッカー協会が主催する試合を担当
- **3級**　都道府県サッカー協会が主催する試合を担当
- **4級**　都道府県サッカー協会を構成する支部、地区/市区郡町村サッカー協会の参加の団体、連盟等が主催するサッカー競技の試合を担当

［フットサル］

- **1級**　JFAが主催するフットサル競技の主審・第2審判を担当
- **2級**　地域サッカー協会が主催するフットサル競技の主審および第2審判を担当
- **3級**　都道府県サッカー協会が主催するフットサル競技の主審および第2審判を担当
- **4級**　都道府県サッカー協会を構成する支部および地区/市区郡町村サッカー協会の参加の団体・連盟等が主催するフットサル競技の主審および第2審判を担当

審判インストラクター制度

審判員を指導するインストラクターの資格は、サッカーがS級・1級・2級・3級、フットサルが1級・2級・3級です。審判インストラクターは、審判員の指導や評価・認定審査や審判インストラクターの指導を行います。

さまざまな取り組みで優れた審判員を輩出

プロフェッショナルレフェリー

トップレベルの審判員に審判活動に専念できる環境を提供するため、2002年から「プロフェッショナルレフェリー制度」を導入しました。2018年4月現在、10人の主審と4人の副審がプロフェッショナルレフェリーとして活躍しています。

地域レフェリーアカデミー

JFAは、審判員／審判インストラクターの育成・強化や審判員指導体制をさらに充実させるため、2017年から「地域レフェリーアカデミー」をスタートさせました。
地域レフェリーアカデミーは、前身のJFAレフェリーカレッジで蓄積してきたノウハウを用い、優秀な若手審判員を短期間に集中して、必要な技術や知識を習得させるものです。
これと並行して行っているのが「JFAレフェリーキャラバン」で、地域サッカー協会、都道府県サッカー協会と協働して体制を構築することで、将来的なレフェリーアカデミーの構築へつなげたいと考えています。

審判トレーニングセンター

2級審判インストラクターと2級審判員のレベル向上を目的に、「地域審判トレーニングセンター」を実施しています。また、3級審判インストラクターと3級審判員を対象に「都道府県審判トレーニングセンター」を、女子審判員の普及・育成を目的に「女子審判トレーニングセンター」を行っています。

ユース審判員育成

育成年代のリーグ戦化などに伴い、現在、約9万3000人（2018年3月現在）のユース審判員（3級／4級における18歳未満・15歳未満の審判員）が全国各地で活躍しています。ユース審判員の登録は増加傾向にあり、彼らがより高い目標を持って活動できるよう、年数回の集中研修を開催しています。
そのほか、U-20の審判員を対象にした研修会、将来を嘱望されるU-22の2級／3級審判員の研修会なども行っています。

審判交流プログラム

各国サッカー協会から審判員やインストラクターを招へいしたり、日本から海外に派遣するなど、審判員の国際交流とともに国際経験の機会を創出しています。これまで、オーストラリア、ポーランド、イングランド、中国、香港などと同プログラムを実施しました。

J1J2 審判研修会

ユース審判員

日本とアジアの成長が世界へ、未来へつながる

日本サッカーが培ってきたノウハウや知識、世界に誇れるフェアでリスペクトに満ちたサッカー文化を、アジアに、世界に、そして未来に広げていきます。

パートナーシップ協定締結

双方のサッカーの発展を目的に、各国協会や大陸連盟などとパートナーシップ協定を締結しています。指導者養成やユース育成システムのノウハウ、グラスルーツや女子サッカー、マーケティング、IT（情報技術）、サッカー関連施設などに関する情報の共有、審判員の交流、各年代の代表チームの合宿受け入れなど、多岐にわたる分野で各国協会・連盟との相互協力を図っています。

- ●ヨーロッパ … イングランドサッカー協会、スペインサッカー連盟、デンマークサッカー協会、ドイツサッカー連盟、フランスサッカー連盟、FCバイエルン・ミュンヘン
- ●アジア …… アラブ首長国連邦サッカー協会、イランサッカー連盟、インドサッカー連盟、インドネシアサッカー協会、ウズベキスタンサッカー連盟、オマーンサッカー協会、カタールサッカー協会、シンガポールサッカー協会、タイサッカー協会、チャイニーズ・タイペイサッカー協会、ベトナムサッカー連盟、香港サッカー協会、モンゴルサッカー連盟、ヨルダンサッカー協会、ラオスサッカー連盟
- ●南米…… 南米サッカー連盟

（大陸連盟別、五十音順／2018年4月30日現在）

アジア協力事業

日本サッカーは長い歴史の中で、アジアをはじめとする世界の国々から多くを学び、成長してきました。JFAは、アジアサッカーの発展があるからこそ日本サッカーの進歩があると考え、47の国と地域が加盟するアジアサッカー連盟（AFC）のモデル協会としてアジアサッカーの発展に力を注いでいます。

指導者／審判インストラクターの海外派遣

各国のサッカーの発展を支援するため、日本の指導者や審判インストラクターを海外に派遣しています。豊富な知識と経験、向上心と責任感に裏打ちされた日本の指導者養成は、アジアで高い評価を得ています。

各種講習会の開催

JFAは、AFC加盟協会を対象に、指導者講習会および審判インストラクター研修会、各国協会職員向けのアドミニストレーション研修会を開催。日本サッカーが構築してきたノウハウや最先端の情報を提供しています。

- ●インターナショナルコーチングコース
- ●インターナショナルレフェリーインストラクターコース
- ●インターナショナルアドミニストレーションコース

海外代表チーム、視察団の受け入れ

海外代表チームのトレーニングキャンプ（宿泊、車両手配、トレーニングマッチのアレンジ）などのほか、日本の育成システムや大会運営などを学びたいという視察団などを受け入れています。

JFAユース育成資金援助

JFAは2003年度から「JFAユース育成資金援助」をスタートさせ、アジア各国のユース育成事業や競技会の開催、指導者養成などを資金面からサポートしています。

国際大会の招致

サッカーを通じた国際貢献を目的に、東アジアサッカー連盟（EAFF）、AFC、国際サッカー連盟（FIFA）などが主催する各種大会を日本に招致すべく、中・長期的な視野で取り組んでいます。

国内外に広く目を向けサッカーの力で社会に貢献する

「JFAこころのプロジェクト」

「一人でも多くの子どもたちに夢を持つことの素晴らしさを伝えたい」
そんな思いから、2006年にこのプロジェクトは誕生しました。

■「夢の教室」

2007年にスタートしたJFAこころのプロジェクトのメインとなる活動で、現役やOB／OGのアスリートなどが「夢先生」として小中学校を訪問し、夢を持つことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さを伝えています。「夢の教室」は夢先生と子どもたちが一緒に体を動かしながらコミュニケーションを図る「ゲームの時間」と、夢先生自身の経験からメッセージを伝える「トークの時間」で構成されます。
http://www.jfa.jp/social_action_programme/yumesen/

■スポーツこころのプロジェクト

東日本大震災で被災した全ての子どもたちのこころの回復を支援するため、日本スポーツ振興センターによる助成を受け、日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会、日本トップリーグ連携機構、JFAの4団体が協働で実施する事業です。「夢の教室」をベースにした「スポーツ笑顔の教室」を被災地の小学5年生と中学2年生を対象に実施しています。
http://www.sports-kokoro.jp/

JFAグリーンプロジェクト

JFAは、天然芝のグラウンドを整備するため、ポット苗の提供や、芝生の育成・管理のノウハウを提供しています。都道府県サッカー協会やサッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園などを対象に芝生の苗を無償で提供しており、2018年4月現在、ピッチ約212面分(1,508,360㎡相当)を芝生に代えました。

復興支援活動

JFAは、「がんばろうニッポン!〜サッカーファミリーのチカラをひとつに!〜」を合言葉に、東日本大震災と熊本地震の復興支援活動に取り組んでいます。「JFA・キリンビッグスマイルフィールド」をはじめ、チャリティーマッチやサッカー教室の開催のほか、被災地におけるサッカー活動を支援。国際サッカー連盟(FIFA)やアジアサッカー連盟(AFC)をはじめ世界中のサッカーファミリーの協力で、用具の提供やサッカー施設の整備も実施しています。

「SDGs(持続可能な開発目標)」への対応

JFAは国連サミットで採択された「Sustainable Development Goals(SDGs)」に対応し、JFAのさまざまな事業や活動が持続可能なものとなり、将来にわたって豊かなスポーツ文化が育まれるよう取り組みを進めています。

「国連グローバル・コンパクト」に参加

2009年、JFAはスポーツ統括団体として世界で初めて「国連グローバル・コンパクト」に登録されました。サッカーが持つ力で人権、労働基準、環境に配慮した社会の実現を目指し、腐敗防止に努めます。

サッカーファミリーの力で美しい地球を

JFAは、日本政府が進める「Fun to Share」と連動し、低炭素社会の実現を目指しています。1998年のFIFAワールドカップでは、試合後、日本のサポーターがゴミ拾いをする姿が驚きと称賛を持って海外のメディアに取り上げられましたが、サッカーファミリーが力を合わせて省エネや環境美化に取り組むことで、大きな効果を発揮できると考えています。

スポーツ界をリードする人材を育成
JFAスポーツマネジャーズカレッジ

JFAは、スポーツ団体やスポーツクラブ、フットボールセンターの運営などに携わる人材の育成を目的に、「JFAスポーツマネジャーズカレッジ(SMC)」を開講しています。
JFAが中心となって行う「SMC本講座(7セッション／約170時間)」と都道府県が主体で実施する「SMCサテライト講座(6セッション／18時間)」があり、JFAや都道府県サッカー協会をはじめ、スポーツクラブやクラブチームなどの組織運営の強化に生かしています。

JFA こころのプロジェクト

JFA 復興支援
サッカーフェスティバル

JFA グリーンプロジェクト

グリーンサポーター

Football for All ～JFAグラスルーツ宣言～

「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念の実現に向け、JFAは2014年5月15日、「JFAグラスルーツ宣言」を行いました。「Football for All　サッカーを、もっとみんなのものへ。」を合言葉に、スポーツの素晴らしさや価値を伝え、誰もが生涯にわたってスポーツを楽しめるよう、その環境づくりに取り組んでいます。

JFAフェスティバル

多くの人々にボールを蹴る楽しさ、体を動かす喜びを味わってもらうため、全国各地でさまざまなフェスティバルを開催しています。

- **JFAキッズサッカーフェスティバル**
- **JFAレディース／ガールズサッカーフェスティバル**
- **JFAファミリーフットサルフェスティバル**

そのほか、株式会社ユニクロの支援のもと、「JFAユニクロサッカーキッズ」を実施しています。

JFAフットボールデー

JFAは、創立記念日である9月10日を「JFAフットボールデー」と定め、各都道府県サッカー協会と共に、サッカーファミリーが集うさまざまなイベントを開催しています。

JFAなでしこひろば

JFAなでしこひろばは、女性を対象にしたサッカーの普及活動です。認定団体の協力を得て全国各地でサッカー／フットサルスクールやゲームなどを展開しています。小さいお子さんや初心者の方でも気軽に楽しむことができます。

JFAエンジョイ5 ～JFAフットサルエンジョイ大会～

“エンジョイ志向”のプレーヤーを対象にした大会です。子どもからシニア世代など年代やレベルなどに応じたカテゴリーを設けており、仲間を募って、あるいは個人でも気軽に参加できる大会となっています。

障がい者サッカー

2016年4月、JFAが中心となって、7つの障がい者サッカー団体を統括する組織「日本障がい者サッカー連盟（JIFF）」を設立しました。障がいの有無にかかわらず誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される共生社会の実現に貢献することを目指しています。

JFAチャレンジゲーム

個人練習でさまざまな動きやテクニックを身に付けられるように開発したサポートツールです。8歳までを対象とした「めざせクラッキ！」、9歳以上を対象とした「めざせファンタジスタ！」があり、段階を経てテクニックを習得できるようになっています。「めざせファンタジスタ！」は、全国各地で検定会を開催しています。

JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー制度

JFAは、JFAグラスルーツ宣言の具現化につながる草の根のサッカー活動を広げるため、「JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー制度」を設けています。「ずっとEnjoy!（引退なし）」「みんなPlay（補欠ゼロ）」「だれでもJoin!（障がい者サッカー）」の3つをテーマにパートナーを募っており、2018年4月現在、162団体が認定されています。

■『引退なし』賛同パートナー

キッズからシニアまで、生涯にわたってサッカーやスポーツを楽しめる場づくりに取り組む団体を認定します。

■『補欠ゼロ』賛同パートナー

年齢やレベルに関わりなく、チーム全員が試合に出場できるよう取り組んでいる団体を認定します。

■『障がい者サッカー』賛同パートナー

障がいの有無にかかわらず、誰もがサッカーやスポーツを通じて個性を発揮できる場づくりに取り組む団体を認定します。

スポーツを楽しむ 環境づくりを

～サッカーをもっと、みんなのものへ～

リスペクトの推進
～大切に思うこと～

JFAとJリーグは2008年4月、サッカー界におけるリスペクトの重要性を認識し、「リスペクトプロジェクト」をスタートしました。リスペクトの本質は、常に全力を尽くしてプレーすること。それはフェアプレーの原点でもあります。JFAは、リスペクトを「大切に思うこと」として、サッカーに関わるすべての人、ものを大切に思う精神を広く浸透させていきます。その一環として、サッカーやスポーツの現場で顕在化する差別や暴力に断固反対し、差別や暴力のない世界をつくるべく、相談窓口を設置するなどのさまざまな取り組みを行っています。

リスペクトF.C. JAPAN

JFA公式Webサイト「JFA.jp」上に開設された、ヴァーチャルなクラブです。クラブ員とリスペクトに関する情報を共有しながらリスペクトの推進に取り組んでいます。

〈リスペクトF.C. JAPANの約束〉
リスペクトF.C. JAPANの一員として、
ENJOY サッカーを楽しむことを誓います
VALUE リスペクトのこころを育て、大切にすることを誓います
ACTION より多くの仲間を増やしていくことを誓います

スポーツの社会的責任を果たし、そのインテグリティ(尊厳)を守る

残念なことに、サッカー界においても暴力やハラスメント、差別、八百長、ドーピング、買収といった、スポーツの尊厳を脅かす問題が後を断ちません。それらに立ち向かうには、リスペクトの精神と高い倫理観、誠実な姿勢で公正を貫く強い信念が不可欠です。
JFAは日本サッカーを統括する団体として、スポーツの魅力や価値を多くの人々に伝える一方で、サッカー活動や組織を脅かす危機や不正の予兆をいち早く察知し、その防止に努めています。サッカーを愛する全ての人々との信頼関係を強固にし、社会規範に即した誠実かつ公正で透明性の高い組織運営を遂行していきます。

■コンプライアンスの徹底
JFAは、サッカー協会(JFA／47都道府県サッカー協会)の役職員の行動規範となる『JFAコンプライアンス・ハンドブック』を制作し、Jリーグをはじめとする各種連盟や加盟団体、登録する団体・個人と共有しています。スポーツの尊厳やサッカーファミリーの価値観の共有と倫理観の向上を図りながら、コンプライアンスを最優先する組織風土をつくっています。

■暴力行為・暴言等の根絶
サッカーの活動現場における組織的または個人的な暴力行為の早期発見と是正および再発防止に努めることを目的に、「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

■八百長の監視
JFAは国際サッカー連盟(FIFA)と協力し、Jリーグをはじめとする各種試合において違法賭博による八百長を監視しています。

■各種規則の制定
そのほか、ドーピングの禁止や反社会的勢力との関係遮断、暴力等の根絶を徹底するための規則を定めています。

組織概要

名称 …… 公益財団法人 日本サッカー協会
名誉総裁 …… 高円宮妃殿下
会長 …… 田嶋 幸三
所在地 …… 〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号)JFAハウス
電話 …… 050-2018-1990(代表)
FAX …… 03-3830-2005
協会創立 …… 1921年
FIFA加盟 …… 1929年
AFC加盟 …… 1954年
公式Webサイト …… http://www.jfa.jp/

会長
田嶋 幸三

副会長
村井 満

副会長
岩上 和道

専務理事
須原 清貴

JFAの目的および事業

JFAは、日本サッカー界を統括し代表する団体として、サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の発達と社会の発展に貢献することを目的に活動しています。この目的を達成するため、以下の事業を行います。

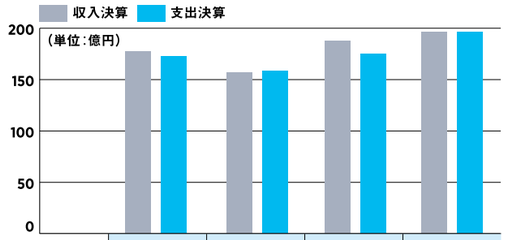
❶日本を代表する各年代、各カテゴリーのサッカーチームを組織し、各種競技会への参加及び代表チームが参加する競技会を開催する
❷サッカーの全日本選手権大会その他の競技会の開催
❸サッカー選手の育成、サッカー競技の普及及びサッカーの指導者並びに審判員の育成
❹選手、チーム、指導者及び審判員等の登録
❺知的所有権の管理及び商標提供
❻社会貢献及び国際貢献の実施
❼その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

JFAミッション2015-2022

「JFA2005年宣言」の具現に向けて、2015年から2022年の8年間に取り組むべき重点的な事業・施策として「JFAミッション2015-2022」を策定し、各事業の推進に取り組んでいます。

Mission❶ 普及施策の推進(JFAグラスルーツ宣言)
Mission❷ 施設整備の推進(JFAグリーンプロジェクト)
Mission❸ 日本代表の強化
Mission❹ 育成環境の充実
Mission❺ 国際競技会の充実
Mission❻ Jリーグとの協働
Mission❼ 国際力の強化と社会貢献の充実
Mission❽ 組織基盤の強化(JFAリフォーム)

財政規模



年度	2005	2010	2015	2017
収入決算	17,772,470	15,691,067	18,787,825	19,585,719
支出決算	17,276,174	15,879,408	17,527,842	19,592,681

(単位:千円)

JFAシンボルマーク

シンボルマーク

日本代表エンブレム

日本代表マスコット
カラッペ(兄)とカララ(弟)

シンボルマークのボールを押さえている鳥は、中国の古典にある三足烏と呼ばれるもので、日の神=太陽をシンボル化したものです。日本では、神武天皇東征の際に八咫烏が道案内をしたということもあり、烏には親しみがありました。
旗の黄色は公正を、青は青春を表し、はつらつとした青春の意気に包まれた日本サッカー協会の公正の気宇を表現しています。
このマークをもとに、日本代表エンブレムと日本代表マスコットが作られています。

JFAの組織概要

JFA組織図

評議員会

理事会

常務理事会

司法機関
- 裁定委員会
- 規律委員会
- 不服申立委員会

委員会

〔常設委員会〕
- 国際委員会
- 競技会委員会
- 財務委員会
- 技術委員会
- 女子委員会
- 審判委員会
- フットサル委員会
- 医学委員会
- 法務委員会

〔専門委員会〕
- 施設委員会
- リスペクト・フェアプレー委員会
- 殿堂委員会
- 監査・コンプライアンス委員会
- 社会貢献委員会

〔特別委員会〕
- 将来構想委員会
- 100周年記念事業委員会
- 復興支援委員会
- 学校部活動検討委員会

〔大会実施委員会〕
- 天皇杯実施委員会
- 国体実施委員会

事務局
- 特命室
- 47都道府県/9地域FA担当部
- 管理部
- 秘書室
- 財務部
- 情報システム室
- コミュニケーション部
- 国際部
- 競技運営部
- マーケティング部
- 技術部
- 女子部
- 代表チーム部
- フットサル・ビーチサッカー部
- 審判部
- JFAこころのプロジェクト推進室
- グラスルーツ推進部
- JFAナショナルフットボールセンター準備室

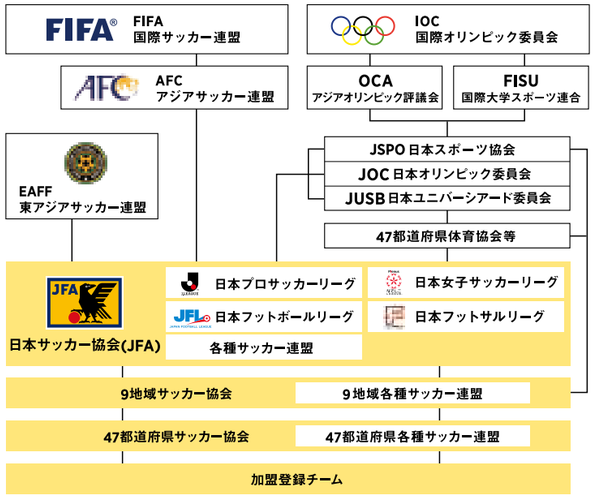
理事会

JFAの各種業務等を協議・決定する機関です。原則として毎月開催し、会長が議長を務めています。

役職	名前	備考
会長	田嶋 幸三	
副会長	村井 満	Jリーグ
副会長	岩上 和道	
専務理事	須原 清貴	
常務理事	松崎 康弘	
常務理事	植田 昌利	関東サッカー協会
常務理事	原 博実	Jリーグ
理事	髙島 利実	北海道サッカー協会
理事	森 亮	東北サッカー協会
理事	田中 厚	北信越サッカー協会
理事	藤田 一豊	東海サッカー協会
理事	前田 康一	関西サッカー協会
理事	宗政 潤一郎	中国サッカー協会
理事	藤田 克己	四国サッカー協会
理事	竹田 孝	九州サッカー協会
理事	眞壁 潔	Jリーグ（Jクラブ）
理事	上田 栄治	
理事	林 義規	
理事	小川 佳実	
理事	池田 浩	
理事	今井 純子	
理事	北澤 豪	
理事	三好 豊	
理事	佐々木 則夫	
理事	手塚 貴子	
理事	鈴木 寛	有識者
理事	山口 香	有識者
監事	福田 雅	
監事	西本 強	

※2018年4月30日現在

関連組織図



評議員会

評議員会は、47都道府県サッカー協会、JリーグならびにJクラブ、日本フットボールリーグ、日本フットサル連盟、なでしこリーグ、JFA所属団体、Jリーグ選手会から選出された75人で構成されています。

所属	名前
公益財団法人北海道サッカー協会	金澤 耿
一般社団法人青森県サッカー協会	久保 雅喜
公益社団法人岩手県サッカー協会	佐藤 訓文
一般社団法人宮城県サッカー協会	大久保 芳雄
一般社団法人秋田県サッカー協会	外山 純
NPO法人山形県サッカー協会	山本 益生
一般財団法人福島県サッカー協会	小池 征
公益財団法人茨城県サッカー協会	木内 敏之
公益社団法人栃木県サッカー協会	糸井 朗
一般社団法人群馬県サッカー協会	鈴木 芳文
公益財団法人埼玉県サッカー協会	岡田 泉
公益社団法人千葉県サッカー協会	福永 廣幸
公益財団法人東京都サッカー協会	上野 二三一
一般社団法人神奈川県サッカー協会	坂本 紀典
一般社団法人山梨県サッカー協会	渡邉 玉彦
一般社団法人長野県サッカー協会	中和 昌成
一般社団法人新潟県サッカー協会	渡辺 滋
公益社団法人富山県サッカー協会	島田 一彦
一般社団法人石川県サッカー協会	西尾 眞友
一般社団法人福井県サッカー協会	西村 昭治
一般財団法人静岡県サッカー協会	髙田 稔
公益財団法人愛知県サッカー協会	越山 彰
一般社団法人三重県サッカー協会	山本 久徳
一般財団法人岐阜県サッカー協会	森 進一
公益社団法人滋賀県サッカー協会	松田 保
一般社団法人京都府サッカー協会	村山 義彰
一般社団法人大阪府サッカー協会	藤縄 信夫
一般社団法人兵庫県サッカー協会	中桐 俊男
一般社団法人奈良県サッカー協会	山口 浩
一般社団法人和歌山県サッカー協会	中村 源和
一般財団法人鳥取県サッカー協会	池田 洋二
一般社団法人島根県サッカー協会	金築 弘
一般財団法人岡山県サッカー協会	山下 立次
公益財団法人広島県サッカー協会	白井 孝司
一般社団法人山口県サッカー協会	天久 弘
一般社団法人香川県サッカー協会	荒岡 成志
一般社団法人徳島県サッカー協会	逢坂 利夫
一般社団法人愛媛県サッカー協会	豊島 吉博

所属	名前
一般社団法人高知県サッカー協会	秋森 学
公益社団法人福岡県サッカー協会	宮崎 章史
一般社団法人佐賀県サッカー協会	福岡 淳二郎
一般社団法人長崎県サッカー協会	小川 勇二
一般社団法人熊本県サッカー協会	北岡 長生
一般社団法人大分県サッカー協会	大場 俊二
一般社団法人宮崎県サッカー協会	櫻田 公一
一般社団法人鹿児島県サッカー協会	松山 孝
一般社団法人沖縄県サッカー協会	上地 義徳
株式会社ベガルタ仙台	西川 善久
株式会社モンテディオ山形	森谷 俊雄
株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー	庄野 洋
浦和レッドダイヤモンズ株式会社	淵田 敬三
株式会社日立柏レイソル	瀧川 龍一郎
東京フットボールクラブ株式会社	大金 直樹
株式会社川崎フロンターレ	藁科 義弘
横浜マリノス株式会社	中村 勝則
株式会社湘南ベルマーレ	水谷 尚人
株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ	佐久間 悟
株式会社松本山雅	神田 文之
株式会社アルビレックス新潟	中野 幸夫
株式会社エスパルス	左伴 繁雄
株式会社名古屋グランパスエイト	小西 工己
株式会社ガンバ大阪	山内 隆司
楽天ヴィッセル神戸株式会社	立花 陽三
株式会社サンフレッチェ広島	山本 拓也
株式会社サガン・ドリームス	竹原 稔
公益社団法人日本プロサッカーリーグ	松尾 裕
一般社団法人日本フットボールリーグ	加藤 桂三
一般社団法人日本女子サッカーリーグ	田村 貢
一般財団法人日本フットサル連盟	原田 理人
一般財団法人全日本大学サッカー連盟	西田 裕之
一般財団法人全国社会人サッカー連盟	牛久保 勇
公益財団法人全国高等学校体育連盟	滝本 寛
一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟	加藤 孝俊
公益財団法人日本中学校体育連盟	福島 隆志
一般社団法人日本プロサッカー選手会	高野 純一

※2018年4月30日現在

関連施設

■日本サッカーミュージアム

日本サッカーミュージアムは、日本サッカーの歴史資料を数多く収蔵・展示する施設で、日本を代表するサッカー専門ミュージアムです。日本サッカー協会（JFA）創設の契機となったFAシルバーカップ（2011年復元）や、なでしこジャパンが獲得したFIFA女子ワールドカップドイツ2011優勝トロフィーなどの各種トロフィーのほか、今日の日本サッカーを築いた先駆者の軌跡を辿る貴重な資史料等、約5万6千点が所蔵されています。大型スクリーンを配した3Dシアターでは、サッカーの感動的なシーンや進化する日本サッカーの迫力ある映像を楽しむことができます。
いにしえの時代から受け継がれてきた日本サッカーの精神と伝統。日本サッカーミュージアムはその有形無形の財産を後世に語り継いでいきます。

■日本サッカー殿堂

2005年5月27日に、日本サッカーミュージアム内に設置された日本サッカー殿堂。日本サッカー界の発展に貢献し功労者として表彰された殿堂掲額者の肖像レリーフを飾っており、2018年4月30日現在、75人と1チームが掲額されています。

■ナショナルトレーニングセンター

現在、Jヴィレッジ（福島）、J-STEP(静岡)、J-GREEN堺（大阪）と3つのサッカーナショナルトレーニングセンターがあります。サッカーやフットサルに専念できる環境が整っており、日本代表チームはもちろんスポーツ愛好家も利用できる場所になっています。

＊Jヴィレッジは東日本大震災後に原発事故対応拠点となり、一時的に活動を休止していましたが、2018年夏に一部再開し、翌2019年にグランドオープンとなります。

■都道府県フットボールセンター

JFAは、地域スポーツ活動の拠点となる「都道府県フットボールセンター」を広げるため、都道府県サッカー協会や地方自治体などが行うサッカー施設の整備事業に対し、その費用の一部を補助する助成事業を実施しています。これにより、45都道府県で75カ所にフットボールセンターなどのサッカー場が整備されました（2018年4月30日現在）。

（仮称）JFAナショナルフットボールセンター

JFAは、創立100周年を迎える2021年までに千葉市美浜区の県立幕張海浜公園内に「（仮称）JFAナショナルフットボールセンター」を創設することを決め、現在、その建設を進めています。
日本代表の強化や選手の育成、指導者・審判員の養成、また、最新の情報や知見、ノウハウを国内はもちろん、アジア、そして世界へと発信する拠点として活用されることになっています。

■JFAメディカルセンター

JFAメディカルセンターは2009年、「FIFAゴールプログラム」の助成を受けた初の医療施設として Jヴィレッジ内に開設されました。選手のけがの治療やリハビリテーションのほか、スポーツ医学や障害予防などに関する研究も行っています。また、地域の人々に対しても高度な医療を提供しています。

＊東日本大震災の影響で一時的に休止。復旧後は従来通りの活動を開始します。

日本サッカーの沿革

1921年	9月	大日本蹴球協会創立(9月10日)、初代会長に今村次吉が就任 1919年にイングランドサッカー協会(The FA)からFAシルバーカップが寄贈されたことを機に大日本蹴球協会が創設される。
	11月	ア式蹴球全国優勝競技会(現、天皇杯日本サッカー選手権大会)開催
1929年	5月	国際サッカー連盟(FIFA)に加盟
1935年	4月	第2代会長に深尾隆太郎
1936年	8月	日本代表、ベルリンオリンピックでベスト8 初めて出場したオリンピックで優勝候補のスウェーデンを3-2で破る大金星(「ベルリンの奇跡」)。川本泰三がオリンピックにおける日本人初ゴールを決める。
1947年	4月	第3代会長に高橋龍太郎
1950年	9月	FIFAに再加盟
1954年	10月	アジアサッカー連盟(AFC)に加盟
1955年	4月	第4代会長に野津謙
1958年	5月	市田左右一常務理事がFIFA理事に就任
1960年	8月	西ドイツサッカー協会からデットマール・クラマーを日本代表初の外国人コーチとして招へい
1964年	10月	東京オリンピックを開催。日本代表、ベスト8
1965年	6月	日本初の全国リーグ、日本サッカーリーグ(JSL)が開幕
1968年	10月	日本代表、メキシコオリンピックで銅メダル 日本代表は、南米やヨーロッパの強豪を打ち破る快進撃を見せ、地元メキシコとの3位決定戦を制して銅メダルを獲得。釜本邦茂が得点王に輝いたほか、この年に新設されたFIFAフェアプレー賞を受賞。翌年にはユネスコの1968年度フェアプレー賞を受賞。
1969年	4月	野津謙会長がFIFA理事に就任
1974年	8月	財団法人化。財団法人日本サッカー協会に組織変更
1976年	4月	第5代会長に平井富三郎
1978年	5月	ジャパンカップ(現、キリンカップサッカー)がスタート
1979年	8-9月	FIFAワールドユーストーナメント(現、FIFA U-20ワールドカップ)を開催
1981年	2月	第1回トヨタヨーロッパ/サウスアメリカカップを開催(〜2004年)
1986年	4月	プロ選手の登録「スペシャルライセンスプレーヤー制度」を導入
1987年	3月	高円宮憲仁親王殿下が名誉総裁にご就任
	4月	第6代会長に藤田静夫
1989年	9月	日本女子サッカーリーグ(現、なでしこリーグ)がスタート
	11月	2002FIFAワールドカップの開催地として正式に立候補を表明
1991年	11月	日本女子代表、第1回FIFA女子世界選手権(中国/現、FIFA女子ワールドカップ)に出場
	11月	社団法人日本プロサッカーリーグ設立(10クラブが加盟)
1992年	4月	第7代会長に島田秀夫
	10-11月	日本代表、第10回AFCアジアカップ(広島)で初優勝
1993年	5月	Jリーグ開幕(5月15日)
	8月	FIFA U-17選手権(現、FIFA U-17ワールドカップ)を開催
1994年	5月	第8代会長に長沼健
1996年	5月	2002FIFAワールドカップ、日本と韓国の共同開催が決定
1997年	12月	財団法人2002年FIFAワールドカップ日本組織委員会(JAWOC)設立
1998年	6-7月	日本代表、FIFAワールドカップ(フランス)に初出場
	7月	第9代会長に岡野俊一郎
1999年	3月	Jリーグ、1・2部制(J1・J2)を導入
	4月	U-20日本代表が第10回FIFAワールドユース(ナイジェリア/現、FIFA U-20ワールドカップ)で準優勝
2000年	10月	日本代表、AFCアジアカップ(レバノン)で2度目の優勝
2002年	5-6月	2002FIFAワールドカップを韓国と共同開催/日本代表、ベスト16。 日本は、グループステージを2勝1分けで突破。ラウンド16でトルコに惜敗するも堂々のベスト16入り。この大会は、"笑顔のワールドカップ"として歴史に刻まれた。また、同年、日本は韓国とともにFIFAフェアプレー賞を受賞。
	7月	第10代会長に川淵三郎
	8月	小倉純二副会長がFIFA理事に就任
	10月	「キャプテンズ・ミッション」を策定
	11月	JFA名誉総裁 高円宮憲仁親王殿下薨去
2003年	3月	高円宮妃久子殿下が名誉総裁にご就任
	12月	JFAハウスに日本サッカーミュージアムをオープン
2004年	7-8月	日本代表、AFCアジアカップ(中国)で2大会連続優勝
2005年	1月	「JFA2005年宣言」(1月1日) 「DREAM〜夢があるから強くなる」をスローガンに、JFAの理念、ビジョン、達成目標を発表。
	5月	日本サッカー殿堂を設立
	12月	TOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップを開催(〜2008年、2011〜12年)、2015〜16年
2006年	4月	JFAアカデミー福島、開校
2007年	4月	「JFAこころのプロジェクト」をスタート サッカー選手をはじめ、各競技のアスリートらが「夢先生(ユメセン)」として全国の小学校などで「夢の教室」を開催。
	9月	日本フットサルリーグ(Fリーグ)開幕
2008年	7月	第11代会長に犬飼基昭
	8月	なでしこジャパン、北京オリンピックで4位入賞
2009年	4月	JFAアカデミー熊本宇城、開校
	8月	JFAメディカルセンターをJヴィレッジにオープン
	9月	アジアサッカーの発展を目指す「JFAドリームアジアプロジェクト」をスタート
2010年	6-7月	SAMURAI BLUE、FIFAワールドカップ(南アフリカ)でベスト16
	7月	第12代会長に小倉純二
	9月	U-17日本女子代表、FIFA U-17女子ワールドカップ(トリニダード・トバゴ)で準優勝
2011年	1月	SAMURAI BLUE、AFCアジアカップ(カタール)で4度目の優勝
	6-7月	なでしこジャパン、FIFA女子ワールドカップ(ドイツ)で初優勝 澤穂希が大会MVPと得点王に輝き、チームはFIFAフェアプレー賞を受賞。
	8月	なでしこジャパンが国民栄誉賞を受賞
2012年	1月	FIFAバロンドール2011で澤穂希がFIFA女子年間最優秀選手賞、佐々木則夫監督が女子年間最優秀監督賞を、日本サッカー協会がFIFAフェアプレー賞を受賞
	4月	公益財団法人日本サッカー協会に組織変更
	4月	JFAアカデミー堺、開校
	6月	第13代会長に大仁邦彌
	7-8月	U-23日本代表、ロンドンオリンピックで4位 なでしこジャパン、ロンドンオリンピックで銀メダル
	8-9月	FIFA U-20女子ワールドカップを開催/U-20日本女子代表が3位
2014年	3-4月	U-17日本女子代表、FIFAU-17女子ワールドカップ(コスタリカ)で初優勝
	5月	「JFAグラスルーツ宣言」を表明 なでしこジャパン、AFC女子アジアカップ(ベトナム)で初優勝 宮間あやがMVP、チームはフェアプレー賞を受賞。
2015年	3月	「JFAのバリュー」を策定
	4月	一般財団法人日本ビーチサッカー連盟(JBSF)設立 JFAアカデミー今治、開校 田嶋幸三副会長がFIFA理事に就任
	6月	なでしこジャパン、FIFA女子ワールドカップ(カナダ)で準優勝
2016年	1月	U-23日本代表、AFC U-23選手権(カタール)で初優勝
	3月	第14代会長に田嶋幸三
	4月	一般社団法人日本障がい者サッカー連盟(JIFF)設立
	9-10月	U-17日本女子代表、FIFA U-17女子ワールドカップ(ヨルダン)で準優勝
	11-12月	U-20日本女子代表、FIFA U-20女子ワールドカップ(パプアニューギニア)で3位
	12月	FIFAクラブワールドカップで鹿島アントラーズが準優勝
2017年	5月	日本女子フットサルリーグ開幕
2018年	4月	なでしこジャパン、AFC女子アジアカップ(ヨルダン)で2大会連続優勝 岩渕真奈がMVP、チームはフェアプレー賞を受賞。

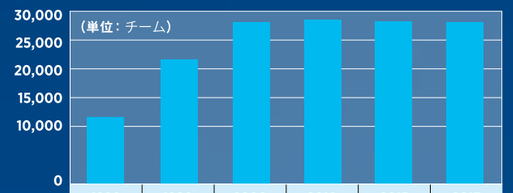
—敬称略—

データでみるJFA

■カテゴリー別 JFA登録数(2017年度)

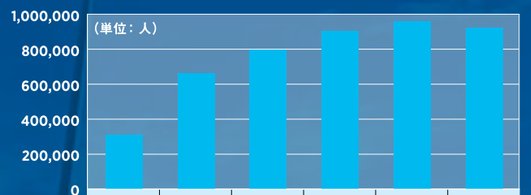
サッカーチーム	28,210チーム	サッカー選手	915,306人	サッカー監督	11,181人	フットサルチーム	2,707チーム
フットサル選手	43,618人	フットサル監督	2,122人	サッカー審判員	271,662人	フットサル審判員	25,111人
サッカー審判インストラクター	2,622人	フットサル審判インストラクター	571人	サッカー指導者(登録)	80,308人	登録数合計(チーム登録数は除く)	1,356,699人
フットサル指導者(登録)	1,539人	キッズリーダー(任意登録)	942人	協会役員	1,717人		

■加盟サッカーチーム数の推移



	1980	1990	2000	2010	2015	2017
第1種	3,697	5,186	8,144	6,946	5,775	5,439
第2種	3,117	3,976	4,295	4,151	4,109	4,110
第3種	1,718	4,388	6,379	7,142	7,436	7,601
第4種	2,967	7,469	8,129	8,399	8,926	8,717
女子	111	573	993	1,226	1,235	1,276
シニア	—	—	196	724	905	1,067
計	11,610	21,592	28,136	28,588	28,386	28,210

■サッカー選手登録数の推移



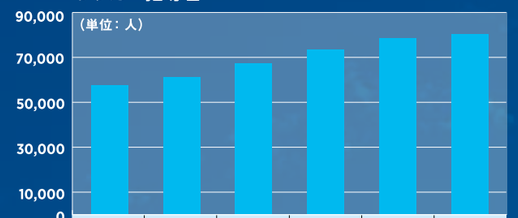
	1980	1990	2000	2010	2015	2017
第1種	74,931	113,786	180,094	167,885	153,836	148,250
第2種	90,241	139,818	153,840	156,893	176,708	176,292
第3種	50,739	146,701	204,223	238,713	264,808	250,065
第4種	91,530	247,674	233,043	292,934	302,606	279,134
女子	2,290	11,992	19,147	25,278	27,169	28,119
シニア	—	—	4,669	19,177	26,332	33,446
計	309,731	659,971	795,016	900,880	951,459	915,306

第1種:年齢制限のないチーム
第2種:18歳未満の選手で構成されるチーム
第3種:15歳未満の選手で構成されるチーム
第4種:12歳未満の選手で構成されるチーム
女子 :女性で構成されるチーム(12歳未満の選手は第4種チーム登録)
シニア:40歳以上で構成されるチーム

*第2種、第3種、第4種の場合、それぞれ高校在学中、中学校在学中、小学校在学中の選手にはこの年齢制限を適応しない。

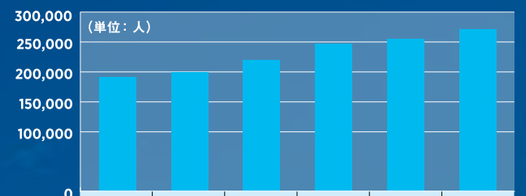
■指導者/審判員登録数の推移

サッカー指導者



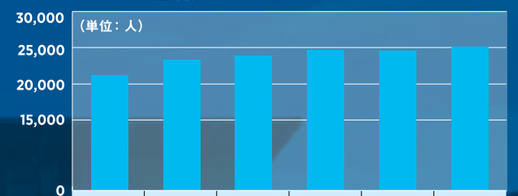
2007	2009	2011	2013	2015	2017
57,779	61,291	67,483	73,555	78,570	80,308

サッカー審判員



2007	2009	2011	2013	2015	2017
192,207	203,727	220,459	246,669	254,741	271,662

フットサル審判員



2007	2009	2011	2013	2015	2017
21,150	23,355	23,876	24,725	24,580	25,111

※フットサルチーム・選手(個人)およびフットサル指導者の登録は2014年度よりスタート

SAMURAI BLUE(日本代表)

歴代監督一覧 (1992年のAFCアジアカップ以降)

名前	期間
ハンス・オフト(オランダ)	1992年5月 ～ 1993年10月
パウロ・ロベルト・ファルカン(ブラジル)	1994年5月 ～ 1994年10月
加茂 周	1995年1月 ～ 1997年10月
岡田 武史	1997年10月 ～ 1998年6月
フィリップ・トルシエ(フランス)	1998年10月 ～ 2002年6月
ジーコ(ブラジル)	2002年7月 ～ 2006年6月
イビチャ・オシム(オーストリア／ボスニア・ヘルツェゴビナ)	2006年7月 ～ 2007年12月
岡田 武史	2007年12月 ～ 2010年8月
アルベルト・ザッケローニ(イタリア)	2010年9月 ～ 2014年7月
ハビエル・アギーレ(メキシコ)	2014年8月 ～ 2015年2月
ヴァイッド・ハリルホジッチ(フランス)	2015年3月 ～ 2018年4月
西野 朗	2018年4月 ～

主要国際大会　戦績

開催年	大会名	監督	成績
1968年	メキシコオリンピック	長沼 健	3位(銅メダル)
1992年	AFCアジアカップ(広島)	ハンス・オフト	**優 勝**
1998年	FIFAワールドカップ(フランス)	岡田 武史	グループステージ敗退
2000年	AFCアジアカップ(レバノン)	フィリップ・トルシエ	**優 勝**
2001年	FIFAコンフェデレーションズカップ(日本・韓国)	フィリップ・トルシエ	準優勝
2002年	FIFAワールドカップ(日本・韓国)	フィリップ・トルシエ	ベスト16
2003年	FIFAコンフェデレーションズカップ(フランス)	ジーコ	グループステージ敗退
2004年	AFCアジアカップ(中国)	ジーコ	**優 勝**
2005年	FIFAコンフェデレーションズカップ(ドイツ)	ジーコ	グループステージ敗退
2006年	FIFAワールドカップ(ドイツ)	ジーコ	グループステージ敗退
2007年	AFCアジアカップ(タイ・ベトナム・マレーシア・インドネシア)	イビチャ・オシム	4位
2010年	FIFAワールドカップ(南アフリカ)	岡田 武史	ベスト16
2011年	AFCアジアカップ(カタール)	アルベルト・ザッケローニ	**優 勝**
2013年	FIFAコンフェデレーションズカップ(ブラジル)	アルベルト・ザッケローニ	グループステージ敗退
2014年	FIFAワールドカップ(ブラジル)	アルベルト・ザッケローニ	グループステージ敗退
2015年	AFCアジアカップ(オーストラリア)	ハビエル・アギーレ	ベスト8

なでしこジャパン(日本女子代表)

歴代監督一覧

名前	期間
市原 聖曠	1981年6月 ～ 1981年9月
折井 孝男	1983年11月 ～ 1984年10月
鈴木 良平	1986年1月 ～ 1989年1月
鈴木 保	1989年12月 ～ 1996年7月
宮内 聡	1997年6月 ～ 1999年6月
鈴木 保	1999年11月 ～ 1999年11月
池田 司信	2000年5月 ～ 2002年4月
上田 栄治	2002年8月 ～ 2004年8月
大橋 浩司	2004年12月 ～ 2007年9月
佐々木 則夫	2008年2月 ～ 2016年3月
高倉 麻子	2016年4月 ～

©AFC

主要国際大会　戦績

開催年	大会名	監督	成績
1991年	FIFA女子ワールドカップ(中国)	鈴木 保	グループステージ敗退
1995年	FIFA女子ワールドカップ(スウェーデン)	鈴木 保	ベスト8
1996年	アトランタオリンピック	鈴木 保	グループステージ敗退
1999年	FIFA女子ワールドカップ(アメリカ)	宮内 聡	グループステージ敗退
2003年	FIFA女子ワールドカップ(アメリカ)	上田 栄治	グループステージ敗退
2004年	アテネオリンピック	上田 栄治	ベスト8
2007年	FIFA女子ワールドカップ(中国)	大橋 浩司	グループステージ敗退
2008年	北京オリンピック	佐々木 則夫	ベスト4
2011年	FIFA女子ワールドカップ(ドイツ)	佐々木 則夫	**優 勝**
2012年	ロンドンオリンピック	佐々木 則夫	準優勝(銀メダル)
2014年	AFC女子アジアカップ(ベトナム)	佐々木 則夫	**優 勝**
2015年	FIFA女子ワールドカップ(カナダ)	佐々木 則夫	準優勝
2018年	AFC女子アジアカップ(ヨルダン)	高倉 麻子	**優 勝**

各カテゴリー代表

■U-23日本代表 オリンピック競技大会　戦績 (1996年以降)

開催年	大会名	監督	成績
1996年	アトランタ大会	西野 朗	グループステージ敗退
2000年	シドニー大会	フィリップ・トルシエ	ベスト8
2004年	アテネ大会	山本 昌邦	グループステージ敗退
2008年	北京大会	反町 康治	グループステージ敗退
2012年	ロンドン大会	関塚 隆	ベスト4
2016年	ブラジル大会	手倉森 誠	グループステージ敗退

※1996年のアトランタ大会からは、各チーム3人までの24歳以上の選手を認める「オーバーエイジ枠」を採用

■U-20日本代表 FIFA U-20ワールドカップ　戦績

開催年	開催国	監督	成績
1979年	日本	松本 育夫	グループステージ敗退
1995年	カタール	田中 孝司	ベスト8
1997年	マレーシア	山本 昌邦	ベスト8
1999年	ナイジェリア	フィリップ・トルシエ	準優勝
2001年	アルゼンチン	西村 昭宏	グループステージ敗退
2003年	アラブ首長国連邦	大熊 清	ベスト8
2005年	オランダ	大熊 清	ベスト16
2007年	カナダ	吉田 靖	ベスト16
2017年	韓国	内山 篤	ベスト16

※第3回大会(1981年)までは19歳以下の選手が出場

■U-17日本代表 FIFA U-17ワールドカップ　戦績

開催年	開催国	監督	成績
1993年	日本	小嶺 忠敏	ベスト8
1995年	エクアドル	松田 保	グループステージ敗退
2001年	トリニダード・トバゴ	田嶋 幸三	グループステージ敗退
2007年	韓国	城福 浩	グループステージ敗退
2009年	ナイジェリア	池内 豊	グループステージ敗退
2011年	メキシコ	吉武 博文	ベスト8
2013年	アラブ首長国連邦	吉武 博文	ベスト16
2017年	インド	森山 佳郎	ベスト16

■U-20日本女子代表 FIFA U-20女子ワールドカップ　戦績

開催年	開催国	監督	成績
2002年	カナダ	池田 司信	ベスト8
2008年	チリ	佐々木 則夫	ベスト8
2010年	ドイツ	佐々木 則夫	グループステージ敗退
2012年	日本	吉田 弘	3位
2016年	パプアニューギニア	高倉 麻子	3位

※2002年のカナダ大会、2004年のタイ大会まではU-19で開催

■U-17日本女子代表 FIFA U-17女子ワールドカップ　戦績

開催年	開催国	監督	成績
2008年	ニュージーランド	吉田 弘	ベスト8
2010年	トリニダード・トバゴ	吉田 弘	準優勝
2012年	アゼルバイジャン	吉田 弘	ベスト8
2014年	コスタリカ	高倉 麻子	**優 勝**
2016年	ヨルダン	楠瀬 直木	準優勝

■フットサル日本代表 FIFA フットサルワールドカップ　戦績

開催年	開催国	監督	成績
1989年	オランダ	宮本 征勝	グループステージ敗退
2004年	チャイニーズ・タイペイ	セルジオ・サッポ	グループステージ敗退
2008年	ブラジル	セルジオ・サッポ	グループステージ敗退
2012年	タイ	ミゲル・ロドリゴ	ベスト16

■ビーチサッカー日本代表 FIFA ビーチサッカーワールドカップ　戦績

開催年	開催国	監督	成績
2005年	ブラジル	ラモス瑠偉	ベスト4
2006年	ブラジル	鳥飼 浩之	ベスト8
2007年	ブラジル	ネネン	グループステージ敗退
2008年	フランス	河原塚 毅	グループステージ敗退
2009年	アラブ首長国連邦	ラモス瑠偉	ベスト8
2011年	イタリア	ラモス瑠偉	グループステージ敗退
2013年	タヒチ	ラモス瑠偉	ベスト8
2015年	ポルトガル	マルセロ・メンデス	ベスト8
2017年	バハマ	マルセロ・メンデス	グループステージ敗退

■フェアプレー賞　受賞一覧(世界大会・イベントのみ)

開催年	大会・イベント名	カテゴリー
1968年	メキシコオリンピック	日本代表
1995年	FIFAワールドユース選手権 (カタール)	U-20日本代表
2001年	FIFAコンフェデレーションズカップ(日本・韓国)	日本代表
2002年	FIFA U-19女子世界選手権 (カナダ)	U-19日本女子代表
2002年	FIFAフェアプレーアワード	日本サッカー協会
2003年	FIFAコンフェデレーションズカップ (フランス)	日本代表
2004年	アテネオリンピック	なでしこジャパン
2005年	FIFAビーチサッカーワールドカップ (リオデジャネイロ)	ビーチサッカー日本代表
2007年	FIFA U-20ワールドカップ(カナダ)	U-20日本代表
2007年	FIFA クラブワールドカップ(日本)	浦和レッズ
2009年	FIFAビーチサッカーワールドカップ(ドバイ)	ビーチサッカー日本代表
2011年	FIFA U-17ワールドカップ (メキシコ)	U-17日本代表
2011年	FIFA女子ワールドカップ (ドイツ)	なでしこジャパン
2011年	FIFAフェアプレーアワード	日本サッカー協会
2012年	ロンドンオリンピック	U-23日本代表
2012年	FIFA U-20女子ワールドカップ(日本)	U-20日本女子代表
2012年	FIFA U-17女子ワールドカップ (アゼルバイジャン)	U-17日本女子代表
2014年	FIFA U-17女子ワールドカップ (コスタリカ)	U-17日本女子代表
2016年	FIFA U-20女子ワールドカップ (パプアニューギニア)	U-20日本女子代表
2016年	FIFA U-17女子ワールドカップ(ヨルダン)	U-17日本女子代表
2016年	FIFA クラブワールドカップ(日本)	鹿島アントラーズ

2018年度　Jリーグ／JFL／なでしこリーグ／Fリーグ／日本女子フットサルリーグ クラブ・活動区域一覧

Jリーグ ディビジョン1

北海道コンサドーレ札幌	北海道
ベガルタ仙台	宮城県
鹿島アントラーズ	茨城県
浦和レッズ	埼玉県
柏レイソル	千葉県
FC東京	東京都
川崎フロンターレ	神奈川県
横浜F・マリノス	神奈川県
湘南ベルマーレ	神奈川県
清水エスパルス	静岡県
ジュビロ磐田	静岡県
名古屋グランパス	愛知県
ガンバ大阪	大阪府
セレッソ大阪	大阪府
ヴィッセル神戸	兵庫県
サンフレッチェ広島	広島県
サガン鳥栖	佐賀県
V・ファーレン長崎	長崎県

Jリーグ ディビジョン2

モンテディオ山形	山形県
水戸ホーリーホック	茨城県
栃木SC	栃木県
大宮アルディージャ	埼玉県
ジェフユナイテッド千葉	千葉県
東京ヴェルディ	東京都
FC町田ゼルビア	東京都
横浜FC	神奈川県
ヴァンフォーレ甲府	山梨県
松本山雅FC	長野県
アルビレックス新潟	新潟県
ツエーゲン金沢	石川県
FC岐阜	岐阜県
京都サンガF.C.	京都府
ファジアーノ岡山	岡山県
レノファ山口FC	山口県
カマタマーレ讃岐	香川県
徳島ヴォルティス	徳島県
愛媛FC	愛媛県
アビスパ福岡	福岡県
ロアッソ熊本	熊本県
大分トリニータ	大分県

Jリーグ ディビジョン3

グルージャ盛岡	岩手県
ブラウブリッツ秋田	秋田県
福島ユナイテッドFC	福島県
ザスパクサツ群馬	群馬県
Y.S.C.C.横浜	神奈川県
SC相模原	神奈川県
AC長野パルセイロ	長野県
カターレ富山	富山県
藤枝MYFC	静岡県
アスルクラロ沼津	静岡県
ガイナーレ鳥取	鳥取県
ギラヴァンツ北九州	福岡県
鹿児島ユナイテッドFC	鹿児島県
FC琉球	沖縄県
FC東京U-23	東京都
ガンバ大阪U-23	大阪府
セレッソ大阪U-23	大阪府

日本フットボールリーグ（JFL）

ヴァンラーレ八戸	青森県
ラインメール青森	青森県
ソニー仙台FC	宮城県
コバルトーレ女川	宮城県
流経大ドラゴンズ龍ケ崎	茨城県
東京武蔵野シティFC	東京都
Honda FC	静岡県
FCマルヤス岡崎	愛知県
MIOびわこ滋賀	滋賀県
ヴィアティン三重	三重県
FC大阪	大阪府
奈良クラブ	奈良県
FC今治	愛媛県
ヴェルスパ大分	大分県
ホンダロックSC	宮崎県
テゲバジャーロ宮崎	宮崎県

なでしこリーグ1部

マイナビベガルタ仙台レディース	宮城県
浦和レッドダイヤモンズレディース	埼玉県
ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	千葉県
日テレ・ベレーザ	東京都
日体大FIELDS横浜	神奈川県
ノジマステラ神奈川相模原	神奈川県
アルビレックス新潟レディース	新潟県
AC長野パルセイロ・レディース	長野県
セレッソ大阪堺レディース	大阪府
INAC神戸レオネッサ	兵庫県

なでしこリーグ2部

ちふれASエルフェン埼玉	埼玉県
オルカ鴨川FC	千葉県
スフィーダ世田谷FC	東京都
ニッパツ横浜FCシーガルズ	神奈川県
静岡産業大学磐田ボニータ	静岡県
伊賀フットボールクラブ くノ一	三重県
バニーズ京都SC	京都府
ASハリマアルビオン	兵庫県
岡山湯郷Belle	岡山県
愛媛FCレディース	愛媛県

チャレンジリーグ

ノルディーア北海道	北海道
常盤木学園高等学校	宮城県
つくばFCレディース	茨城県
FC十文字VENTUS	東京都
大和シルフィード	神奈川県
新潟医療福祉大学女子サッカー部	新潟県
JFAアカデミー福島	静岡県*
NGUラブリッジ名古屋	愛知県
コノミヤ・スペランツァ大阪高槻	大阪府
セレッソ大阪堺ガールズ	大阪府
吉備国際大学Charme岡山高梁	岡山県
アンジュヴィオレ広島	広島県

*東日本大震災と原発事故の影響で、福島より一時移転中

Fリーグ　ディビジョン1

エスポラーダ北海道	北海道
ヴォスクオーレ仙台	宮城県
バルドラール浦安フットボールサラ	千葉県
フウガドールすみだ	東京都
立川・府中アスレティックFC	東京都
ASV PESCADOLA 町田	東京都
湘南ベルマーレフットサルクラブ	神奈川県
アグレミーナ浜松	静岡県
名古屋オーシャンズ	愛知県
シュライカー大阪	大阪府
バサジィ大分	大分県
Fリーグ選抜	

Fリーグ　ディビジョン2

トルエーラ柏	千葉県
Y.S.C.C.横浜	神奈川県
ボアルース長野	長野県
ヴィンセドール白山	石川県
デウソン神戸	兵庫県
広島エフ・ドゥ	広島県
ポルセイド浜田	島根県
ボルクバレット北九州	福岡県

日本女子フットサルリーグ

エスポラーダ北海道イルネーヴェ	北海道
さいたまSAICOLO	埼玉県
流経大メニーナ龍ケ崎	茨城県
バルドラール浦安ラス・ボニータス	千葉県
府中アスレティックFCプリメイラ	東京都
福井丸岡RUCK	福井県
Futsal Clube UNIAO Ladies	愛知県
arco-iris KOBE	兵庫県

2018明治安田生命Jリーグ ディビジョン1

2018プレナスなでしこリーグ 1部

DUARIG Fリーグ2017/2018

関連団体組織連絡先

■関連団体

団体名	住所	TEL	FAX
(一社)東アジアサッカー連盟	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-3830-1848	03-3830-1849
(公社)日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)	〒113-0033　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス9F	03-5805-3300	03-3830-2007
(一社)日本フットボールリーグ(JFL)	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-3830-1840	03-3830-1847
(一社)日本女子サッカーリーグ	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-3830-1841	03-3830-1847
日本フットサルリーグ	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-3830-2925	03-3830-1847
(一財)全日本大学サッカー連盟	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-3830-1850	03-3830-1851
(一財)全国社会人サッカー連盟	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-3830-1845	03-3830-1847
全国自治体職員サッカー連盟	〒163-8001　東京都新宿区西新宿2-8-1　東京都 財務局 建築保全部　黒木秀一様気付	03-5388-2823	03-5388-1286
全国自衛隊サッカー連盟	〒162-8804　東京都新宿区市谷本村町5-1　防衛省 陸上幕僚監部　監理部 総務課 広報室　安達弘典様気付	03-3268-3111(内線40082)	
全国専門学校サッカー連盟	〒169-8522　東京都新宿区百人町1-25-4　日本電子専門学校　佐々木善様気付	03-3363-7761	03-3363-7112
全国高等専門学校サッカー連盟	〒084-0916　北海道釧路市大楽毛西2-32-1　釧路工業高等専門学校　三森敏司様気付	0154-57-7375	0154-57-6252
(公財)全国高等学校体育連盟サッカー部	〒143-0015　東京都大田区大森西3-2-12　大森学園高等学校内　小川伸太郎様気付	03-3762-7336	03-3766-0314
(一財)日本クラブユースサッカー連盟	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-3830-1844	03-3830-1847
(公財)日本中学校体育連盟サッカー部	〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内	03-3481-2425	03-3481-2493
(一財)日本フットサル連盟	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-3830-1843	03-3830-1847
(一財)全日本大学女子サッカー連盟	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-3830-1984	03-3830-1847
(一社)日本プロサッカー選手会	〒104-0033　東京都中央区新川2-8-4　八重洲長岡ビル2F		
(一社)日本障がい者サッカー連盟	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス6F	03-3818-2030	03-3830-7760
(一財)日本ビーチサッカー連盟	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-3830-1827	03-3830-1847
(一財)日本サッカー後援会	〒113-8311　東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス7F	03-4455-3339	03-3830-1847

■地域・都道府県サッカー協会

団体名	住所	TEL	FAX
(公財)北海道サッカー協会	〒062-0912　札幌市豊平区水車町5-5-41　北海道フットボールセンター内	011-825-1100	011-825-1101
(一社) 東北サッカー協会	〒981-0103　宮城郡利府町森郷字内ノ目南119-1	022-352-3720	022-352-3725
(一社)青森県サッカー協会	〒033-0011　三沢市幸町1-6-27	0176-50-2866	0176-50-2867
(公社)岩手県サッカー協会	〒028-3318　紫波郡紫波町紫波中央駅前2丁目1-1　岩手県フットボールセンター	019-681-8010	019-681-8012
(一社)宮城県サッカー協会	〒981-0103　宮城郡利府町森郷字内ノ目南119-1　宮城県サッカー場内	022-767-7679	022-767-3076
(一社)秋田県サッカー協会	〒010-0974　秋田市八橋運動公園1-5　秋田県スポーツ科学センター内3F	018-896-5665	018-896-5688
NPO法人 山形県サッカー協会	〒990-2453　山形市若宮4丁目5-14　メゾンドシャルム101号	023-665-5463	023-665-5464
(一財)福島県サッカー協会	〒963-0204　郡山市土瓜1-230　柳沼ビル1F	024-953-5626	024-953-5627
(一社)関東サッカー協会	〒113-0033　文京区本郷3-10-15　JFAハウス7F	03-3816-1060	03-3830-1847
(公財)茨城県サッカー協会	〒310-0026　水戸市泉町2-2-11　大谷ビル2F	029-228-6645	029-228-6646
(公社)栃木県サッカー協会	〒320-0857　宇都宮市鶴田2-2-10　鈴運メンテック(株)ビル2F	028-688-8411	028-688-8400
(公社)群馬県サッカー協会	〒371-0854　前橋市大渡町1-10-7　群馬県公社総合ビル5F	027-256-7258	027-256-7298
(公財)埼玉県サッカー協会	〒330-0074　さいたま市浦和区北浦和1-21-18　雁ヶ音ビル204	048-834-2002	048-834-2004
(公社)千葉県サッカー協会	〒260-0013　千葉市中央区中央3-9-16　三井生命千葉中央ビル1F	043-310-4888	043-222-0355
(公財)東京都サッカー協会	〒113-0033　文京区本郷3-10-15　JFAハウス6F	03-6801-8001	03-5800-5525
(一社)神奈川県サッカー協会	〒252-0804　藤沢市湘南台1-6-7　小宮ビル4F	0466-46-5602	0466-46-5696
(一社)山梨県サッカー協会	〒409-3864　中巨摩郡昭和町押越1500-1 押原公園内	055-267-8885	055-267-8886
(一社)北信越サッカー協会	〒936-0078　滑川市高月町129番　日医工スポーツアカデミー内	076-471-7114	076-471-6119
(一社)長野県サッカー協会	〒390-8565　松本市深志2丁目6-9　LON BLDG. 3F	0263-87-8565	0263-87-8587
(一社)新潟県サッカー協会	〒950-1101　新潟市西区山田2307-272　新潟ふるさと村敷地内　時の旅人館2F	025-233-0100	025-233-0055
(公社)富山県サッカー協会	〒936-0078　滑川市高月町129番　日医工スポーツアカデミー内	076-476-0403	076-476-0423
(一社)石川県サッカー協会	〒920-8203　金沢市鞍月4丁目105番地　ダイワロイヤル金沢ビル3F	076-218-9000	076-218-9001
(一社)福井県サッカー協会	〒918-8239　福井市成和1丁目1009(繊維会館1F)	0776-28-2990	0776-28-2998
(一社)東海サッカー協会	〒420-0031　静岡市葵区呉服町2-1-5　5風来館6F	054-266-3412	054-266-3413
(一財)静岡県サッカー協会	〒420-0031　静岡市葵区呉服町2-1-5　5風来館5F	054-266-5280	054-266-5281
(公財)愛知県サッカー協会	〒467-0066　名古屋市瑞穂区洲山町2-21　啓徳名古屋南ビル5F	052-846-2320	052-846-2383
(一社)三重県サッカー協会	〒513-0806　鈴鹿市算所5-22-18　オフィススズカ1F	059-379-5207	059-379-5154
(一財)岐阜県サッカー協会	〒500-8357　岐阜市六条大溝3-8-13	058-272-4343	058-272-3181
(一社)関西サッカー協会	〒550-0004　大阪市西区靭本町1-7-25　イトーダイ靭本町ビル8F	06-6445-0011	06-6445-0055
(公社)滋賀県サッカー協会	〒524-0212　守山市服部町2439　野洲川歴史公園サッカー場内	077-585-0982	077-585-0983
(一社)京都府サッカー協会	〒604-8205　京都市中京区新町三条下ル三条町349-2　くろちく六角ビル4F	075-211-9416	075-211-9417
(一社)大阪府サッカー協会	〒550-0004　大阪市西区靭本町1-7-25　イトーダイ靭本町ビル6F	06-6441-5881	06-6441-5882
(一社)兵庫県サッカー協会	〒651-0085　神戸市中央区八幡通2-1-10　三木記念神戸市立スポーツ会館内	078-232-0753	078-232-4647
(一社)奈良県サッカー協会	〒636-0222　磯城郡田原本町法貴寺1371	0744-47-2212	0744-47-2223
(一社)和歌山県サッカー協会	〒640-8323　和歌山市太田2-14-9　太田ビル205	073-472-2713	073-472-2714
(一社)中国サッカー協会	〒730-0015　広島市中区橋本町3-21　コーポ芦屋2F	082-222-0802	082-212-3852
(一財)鳥取県サッカー協会	〒680-1141　鳥取市蔵田423　鳥取市営サッカー場バードスタジアム内	0857-51-7600	0857-51-7603
(一社)島根県サッカー協会	〒690-0876　松江市黒田町454-9	0852-32-4673	0852-32-4683
(一財)岡山県サッカー協会	〒700-0985　岡山市北区厚生町3-1-15　岡山商工会議所ビル6F	086-227-5653	086-226-2037
(公財)広島県サッカー協会	〒730-0015　広島市中区橋本町3-21　コーポ芦屋2F	082-212-3851	082-212-3852
(一社)山口県サッカー協会	〒753-0048　山口市駅通り2-7-18　トウヨウビル203	083-920-5700	083-920-5701
(一社)四国サッカー協会	〒770-0864　徳島市大和町2-1-6　佐々木ビル2F	088-678-2656	088-678-2657
(一社)香川県サッカー協会	〒761-0104　高松市高松町1367-1　東部運動公園内	087-816-1790	087-816-1791
(一社)徳島県サッカー協会	〒770-0864　徳島市大和町2-1-6　佐々木ビル2F	088-655-6190	088-656-8121
(一社)愛媛県サッカー協会	〒790-0914　松山市三町3-12-13　三町ビル105	089-990-3663	089-990-3883
(一社)高知県サッカー協会	〒780-0053　高知市駅前町2-1　高砂ビル301	088-875-3115	088-872-1151
(一社)九州サッカー協会	〒810-0004　福岡市中央区渡辺通5-13-3　セントラルビル304号	092-982-1360	092-982-1361
(公社)福岡県サッカー協会	〒813-0018　福岡市東区香椎浜ふ頭1-2-16　福岡フットボールセンター内	092-674-2900	092-674-2911
(一社)佐賀県サッカー協会	〒849-0923　佐賀市日の出2-1-11　佐賀県スポーツ会館内	0952-33-7609	0952-33-7714
(一社)長崎県サッカー協会	〒850-0851　長崎市古川町6番35号　タナカビル2F	095-829-3370	095-829-3371
(一社)熊本県サッカー協会	〒861-4101　熊本市南区近見6-16-29	096-247-6980	096-247-6981
(一社)大分県サッカー協会	〒870-0125　大分市大字松岡6841	097-573-2288	097-573-2290
(一社)宮崎県サッカー協会	〒880-0878　宮崎市大和町91　タカラムラビル1F	0985-32-7151	0985-32-7152
(一社)鹿児島県サッカー協会	〒890-0062　鹿児島市与次郎1-8-10　サンロイヤルホテル4F	099-259-6856	099-259-3478
(一社)沖縄県サッカー協会	〒900-0026　那覇市奥武山町51-2　406号室(沖縄県体協スポーツ会館内)	098-996-4722	098-996-4733

2018年4月30日現在

本誌内のクレジット記載のない写真：JFA、JFA/PR、J.LEAGUE、JFAnews/SMD